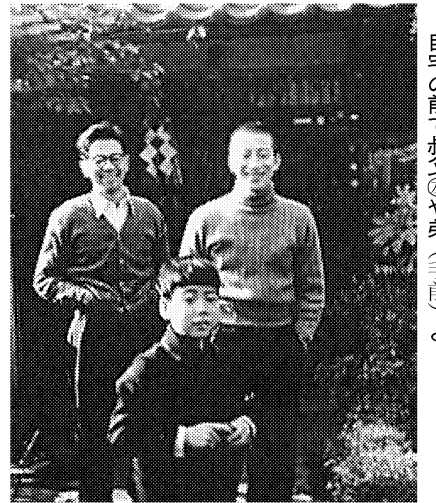




自宅の前で叔父(左)や弟(手前)と



中学、高校は東京・吉祥寺にある成蹊に通う。中学校に通い始めてから元気になるまで。たぶん、一日も学校を休まなかったと思います。栄養がよくたってきたのと、進駐軍から結核の特効薬、ストレプトマイシンなどが手

てくれる先生もいました。みんな個性豊かで枠にはまっていなかった。変な教育指導みたいなものはありませんでした。黒川家の家風が割にリベラルだったというか、放任主義だったこともありますが、この6年間の成蹊での生活、特に先生たちの存在が、私の人格形成に大きな影響を与えたと思います。

楽しすぎたのがいけなかったのか、現役での東大受験に落

ひ弱な子ども時代、雨降ると登校できず

中高の個性豊かな先生、人格形成の基礎に

代々医者の家系、進路悩まず医学部へ

1936年、東京・荻窪で、男3人、女1人の4人兄弟の長男として生まれる。父親は開業医。父母を合わせて6人家族。近所に父方の祖母も母方の祖父も住んでいたから、しょっちゅう行き来したりして、家はいつもにぎやかでした。ただ、戦争中なので、焼夷(しようい)弾も落ちてきたし、防空壕(ごう)にもよく行ってました。疎開もしました。

「お兄さんが最初ね」といつも私に食べさせてくれる。妹たちからは恨まれていたでしょうね。とにかくひ弱で、小学校のときは雨が降ると学校へ行けません。親は風邪を引くんじやないかと思っていたし、自分もあまり行きたくないし。運動もしなかったけど、だからといって本をたくさん読んだわけでもありません。何もしなかった。のんびりしたもんですよ。

「お兄さんが最初ね」といつも私に入ってきたこの影響かもしれませ

る。高校3年のとき、先生から「君たちのクラスは優秀だね」とほめられていい気になってね、この年は学校全体で東大に3人しか受かりませんでした。駿台高等予備校(現駿台予備学校)に行ったら、成績の悪い午後のクラスに入れられ、井の中の蛙(かわず)だったことが分かりました。

一浪して東大理2に入り、進路はあまり悩みませんでした。父親は熊本で代々医者をやっていた家系で、私も小さいころから親の仕事を継いで医者になるもんだと思っていましたから。2年後に落ちれば退学か浪人と

身体はとても弱かった。栄養がよくなかったんでしょうね。自分では覚えていないけど、幼稚園のころ、結核で胸水がたまっていたと

は雨が降ると学校へ行けません。親は風邪を引くんじやないかと思っていたし、自分もあまり行きたくないし。運動もしなかったけど、だからといって本をたくさん読んだわけでもありません。何もしなかった。のんびりしたもんですよ。

学校は楽しかったですね。友だちとの交遊はもちろんだけど、先生たちが自らガリ版を刷って作った教科書で教えてくれる授業も面白かった。

大学院を出たばかりの若い先生が数学を教えてくれたり、俳人の中村草田男さんが漢語、書家の上條信山さんが漢文の先生だった

り。裏の畑に農作業に連れてい

「お兄さんが最初ね」といつも私に食べさせてくれる。妹たちから

は雨が降ると学校へ行けません。親は風邪を引くんじやないかと思っていたし、自分もあまり行きたくないし。運動もしなかったけど、だからといって本をたくさん読んだわけでもありません。何もしなかった。のんびりしたもんですよ。

学校は楽しかったですね。友だちとの交遊はもちろんだけど、先生たちが自らガリ版を刷って作った教科書で教えてくれる授業も面白かった。

大学院を出たばかりの若い先生が数学を教えてくれたり、俳人の中村草田男さんが漢語、書家の上條信山さんが漢文の先生だった

り。裏の畑に農作業に連れてい

「出る杭」が日本を変える ②

(聞き手は編集委員 山田康昭)